

香川生物 (Kagawa Seibutsu) (11) : 23-26, 1983.

小豆島の翼手類 5 種の報告

森井 隆三

〒762 坂出市文京町 2-1-5 香川県立坂出高等学校

Notes on Five Bats from Shōdoshima Island, Kagawa Prefecture
Ryūzō MORII, Sakaide Senior High School, Bunkyo-chō, Sakaide 762, Japan

Abstract : The following four bats are collected from the Is. of Shōdoshima, Kagawa Pref., Japan: *Rhinolophus cornutus* Temminck, 1835, *R. ferrumequinum* (Schreber, 1774), *Myotis macrodactylus* (Temminck, 1840), and *Miniopterus fuliginosus* (Hodgson, 1835). By the information obtained by inquiry, it is clear that *Pipistrellus abramus* (Temminck, 1840) inhabits at 7 among 19 localities of the island. *M. macrodactylus* and *P. abramus* are the first record appeared in the faunal literatures of the island.

はじめに

小豆島の翼手類についての断片的な報告には、岡田 (1955) および森井 (1967) がある。岡田 (1955) は、内海町の寒霞溪の廃坑で、コキクガシラコウモリ *R. cornutus* とユビナガコウモリ *M. fuliginosus* を観察し記録している。森井 (1967) は、同場所でもキクガシラコウモリ *R. ferrumequinum* を追加している。

筆者は1982年8月15日と11月23日の二度にわたり寒霞溪の1つの廃坑を調査し、同時に聞き込み調査もおこなった。その結果、小豆島としては新しく2種を加えることができたので、今後の資料のために報告する。

稿をはじめに先だち、現地での案内と調査に協力いただいた香川県立小豆島高等学校の生物部員、香川県立坂出高等学校の福岡幹己君、伊藤彰君、聞き込み調査に御協力いただいた香川県立土庄高等学校の山下昌徳先生、香川県立小豆島高等学校の九富昭久先生および片本毅先生に感謝致します。また、稿閲と有益な助言をいただいた香川大学教育学部生物学教室の金子之史先生に謝意を表します。

調査地域および方法

今回の調査地は瀬戸内海では淡路島について

大きな小豆島 (面積 152 km²) である (図 1)。小豆島は周囲約 140 km で、島の東方に最高峰の星ヶ城山 (標高 816.7 m) がある。その南側中腹に寒霞溪があり、昔金鉱が出るといって掘った廃坑がある (図 2-D)。この廃坑は上下 2 つの穴からなっており、下は長さが短かく (約 50 m)、上は長い (約 300 m)。この廃坑の最深部は行きどまりで、水たまりとなっている。

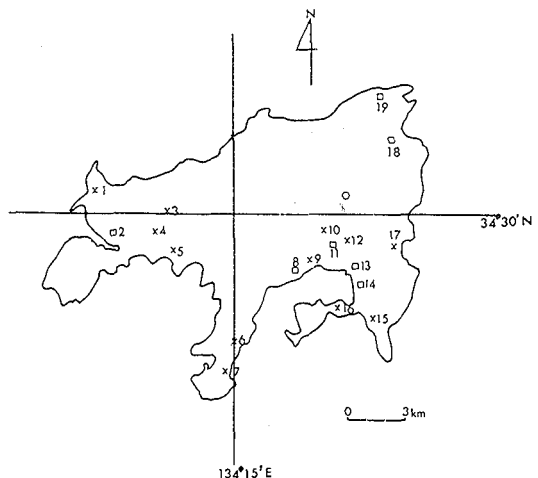


図 1 小豆島における調査地点。○寒霞溪の廃坑。□聞き込みによってアブラコウモリの生息が確認できた地点。×聞き込みによってアブラコウモリの生息が確認できなかった地点。

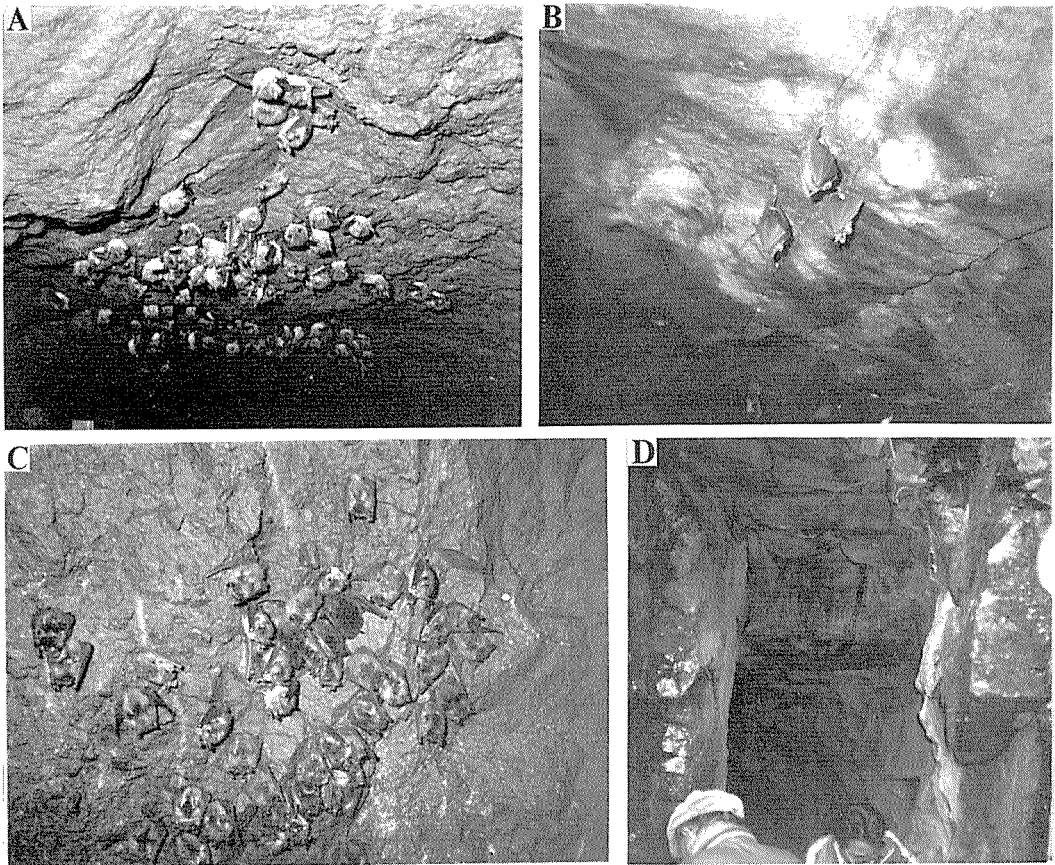


図2 A:冬眠中のコキクガンシラコウモリ. B:冬眠中のキクガンシラコウモリ. C:冬眠集団中のコキクガンシラコウモリに混棲して冬眠しているモモジロコウモリ(中央の3頭). D:寒霞溪の廃坑の入口.

コウモリの採集は捕虫網でおこなった。採集された個体の体重は上皿天秤で0.1gまで、外部形態は物さしで0.1mmまで測定した。聞き込み調査はアンケートに答えてもらう方法(24人)と、直接住民に確かめる方法(12人)でおこなった。

結果と考察

今回の調査で以下の5種のコウモリが確認できた。そのうち、新しい記録としてはモモジロコウモリ *M. macrodactylus* とアブラコウモリ *P. abramus* である。

コキクガンシラコウモリ

Rhinolophus cornutus Temminck, 1835

1982年8月15日の調査では1頭もみつけられなかった。同年11月23日の調査では冬眠中の個

体が約120頭観察された(図2-A)。岡田(1955)は11月6日に約30頭を観察している。今回のような多くの個体数および冬眠状態のコキクガンシラコウモリが観察されたのは香川県内では初めてである。今までの香川県内における分布と個体数の観察は、高松市の屋島の洞窟で、1964年、1968年、1969年、1970年および1974年にそれぞれ数頭、綾歌郡国分寺町の廃坑で1974年2頭と1981年に1頭である。

採集されたコキクガンシラコウモリ9頭の個別外部形態の測定値を表1に示した。

キクガンシラコウモリ

Rhinolophus ferrumequinum(Schreber, 1774)

1982年8月15日の調査時には約50頭が観察された。同年11月23日の調査時には冬眠中(図2

表1 小豆島産コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus* (R. c), キクガシラコウモリ
R. ferrumequinum (R. f) およびユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus* (M. f)
 の外部形態の測定値 (mm)。

種名	標本 番号	性	体重 (g)	頭胴長	尾長	前腕長	耳介長	後足長	脛骨長	第 3 掌骨長	第 4 掌骨長	第 5 掌骨長
R. c	M2779	♀	8.8	46.0	25.0	40.9	17.5	9.0	17.5	31.0	32.1	32.1
R. c	M2780	♂	8.5	43.5	24.1	40.5	17.1	8.6	18.0	29.2	30.5	30.9
R. c	M2781	♀	7.0	41.9	22.5	40.0	17.0	8.5	18.9	30.9	31.5	31.6
R. c	M2782	♂	6.6	45.0	24.0	39.2	17.9	8.4	18.8	29.8	30.5	30.7
R. c	M2783	♂	6.7	45.1	22.0	37.0	17.1	8.0	16.9	28.8	30.0	30.2
R. c	M2784	♂	6.2	43.0	21.0	40.0	17.8	8.9	17.9	30.9	31.9	32.0
R. c	M2785	♂	6.2	46.1	22.1	—	16.5	9.0	17.1	—	—	—
R. c	M2786	♂	6.8	44.8	19.9	40.0	18.0	8.0	17.6	30.8	31.2	31.5
R. c	M2787	♀	6.7	45.0	20.0	40.1	17.1	8.1	17.8	29.1	30.9	32.0
R. f	M2744	♀	27.2	73.9	41.6	60.8	27.5	11.9	26.0	39.5	44.2	46.9
R. f	M2745	♀	24.8	72.2	40.1	62.2	27.8	13.0	25.2	40.5	45.9	47.5
R. f	M2746	♀	26.7	72.0	40.0	60.0	27.1	13.5	24.1	40.1	45.2	47.0
R. f	M2747	♀	28.5	71.6	41.6	59.0	26.5	11.5	24.9	38.9	43.8	44.1
R. f	M2748	♂	17.3	66.0	40.6	58.8	25.9	12.8	23.9	38.0	42.5	44.5
R. f	M2749	♀	26.5	70.0	38.0	60.5	28.0	13.7	25.8	40.1	43.9	47.2
R. f	M2750	♀	26.8	71.1	39.0	59.2	27.1	11.8	25.0	40.9	45.8	46.0
R. f	M2751	♀	21.9	67.4	35.0	59.0	27.0	11.9	24.2	40.0	44.0	46.0
R. f	M2752	♀	23.4	69.1	38.1	60.8	25.1	12.1	25.2	39.5	44.2	46.0
R. f	M2753	♂	24.6	69.2	40.0	57.5	26.9	12.5	25.5	39.1	44.1	45.3
R. f	M2754	♀	26.6	70.5	37.0	57.0	25.6	11.5	24.0	39.0	43.2	45.5
R. f	M2755	♀	24.2	68.1	40.0	58.0	26.2	13.0	23.8	39.6	43.6	43.1
R. f	M2756	♂	25.2	65.0	39.9	60.3	26.0	12.5	25.9	39.9	44.5	46.0
R. f	M2757	♂	22.2	67.0	37.0	55.1	26.0	10.5	24.1	37.5	42.0	44.0
R. f	M2758	♂	19.3	64.2	34.9	55.5	26.0	12.5	23.3	36.1	42.1	42.9
R. f	M2759	♀	23.3	68.1	39.1	57.1	24.9	11.9	24.0	37.0	42.0	43.7
R. f	M2760	♀	26.2	72.1	40.5	57.0	26.1	12.0	25.1	40.1	43.0	43.9
R. f	M2761	♂	24.2	68.9	37.1	58.8	25.1	12.6	25.0	39.8	44.1	44.0
R. f	M2777	♂	28.4	72.1	41.0	58.0	26.5	12.7	24.5	40.1	46.1	46.9
R. f	M2778	♀	24.3	67.5	38.8	58.0	25.5	11.8	24.9	39.0	42.6	44.1
R. f	M2788	♂	21.2	68.5	36.0	56.9	27.3	12.6	25.2	38.9	43.8	45.1
R. f	M2792	♀	20.2	63.5	35.2	58.5	26.0	13.2	23.9	38.5	44.5	46.0
R. f	M2793	♂	21.6	60.1	37.5	57.9	26.5	12.0	23.0	37.2	44.0	46.0
R. f	M2794	♀	23.4	68.2	39.8	59.7	27.8	12.9	26.0	40.5	45.0	47.5
R. f	M2795	♂	24.8	67.2	39.8	58.0	27.1	13.0	24.1	39.8	44.5	46.1
M. f	M2789	♂	15.7	60.9	56.9	46.5	12.0	9.8	18.5	41.9	40.3	36.7
M. f	M2790	♂	18.0	57.1	59.0	45.9	11.9	9.2	18.0	41.2	40.9	37.1
M. f	M2791	♂	14.9	57.5	58.6	45.1	11.9	9.2	18.9	40.2	38.1	36.1

—B)の個体が約25頭観察された。森井(1967)は8月に数頭観察している。香川県内でこの種が多く生息しているのは、今回の小豆島と三豊郡大野原町の隧道である。他の地域では、高松市の屋島の洞窟、仲多度郡満濃町の塩入り隧道と国分寺町の廃坑等で数頭が観察されている。

採集されたキクガシラコウモリ25頭の個体別外部形態の測定値を表1に示した。

モモジロコウモリ

Myotis macrodactylus (Temminck, 1840)

1982年11月23日の調査で、コキクガシラコウモリの冬眠中の集団の中に混棲して冬眠している3頭が観察された(図2-C)。これは小豆島における最初の記録である。しかし、この種を採集しなかった。香川県内では、高松市の屋島の洞窟や満濃町の塩入り隧道に多く生息している。

アブラコウモリ

Pipistrellus abramus (Temminck, 1840)

聞き込み調査によってこの種の生息が新しく確認できた(表2)。分布が確認できた7地点は、すべて海洋に面しており、標高が0m~10mに位置していた。アブラコウモリがどのような地域を生息環境として好むかは今後の詳細な

表2 小豆島産アブラコウモリ *Pipistrellus abramus* の聞き込み調査による生息の有無と標高

図1の調査地点	生息の有無	標高(m)	図1の調査地点	生息の有無	標高(m)
2 湊崎	有	0-10	5 蒲生	無	0-10
8 水木	有	0-10	6 蒲野	無	20-30
11 草壁	有	0-10	7 吉ガ浦	無	0-10
13 安田	有	0-10	9 日方	無	0-10
14 苗羽	有	0-10	10 神懸通り	無	10-20
18 福田	有	0-10	12 木ノ庄	無	10-20
19 吉田	有	0-10	15 坂手	無	0-10
1 小江	無	0-10	16 古江	無	0-10
3 小馬越	無	150-160	17 橋	無	0-10
4 上庄	無	0-10			

調査が待たれる。香川県内では、観音寺市や高松市に多く生息している。

ユビナガコウモリ

Miniopterus fuliginosus (Hodgson, 1835)

1982年11月23日の調査では、3頭が集団をつくらずに単独で冬眠をしていた。岡田(1955)は11月6日に約10頭観察している。香川県内では、高松市の屋島の洞窟や満濃町の塩入り隧道に多く生息している。

採集されたユビナガコウモリ3頭の個体別外部形態の測定値を表1に示した。

なお、この種の学名については、前腕長と脛骨長の測定値からみてMaeda(1982)に従った。

摘 要

1982年8月15日と11月23日の二度にわたって小豆島の寒霞溪の1つの廃坑と聞き込み調査をした。その結果、新しくモモジロコウモリ *M. macrodactylus* とアブラコウモリ *P. abramus* の2種が記録され、小豆島のコウモリとしては5種が確認された。島の大きさから考えると、多くの種が生息していると考えられる。

引用文献

Maeda, K. 1982. Studies on the classification of *Miniopterus* in Eurasia, Australia and Melanesia. *Mammalian science (Supplement)* (1): 1-176.
 森井隆三. 1967. 香川県産のコウモリ数種について. 香川生物 (3): 21-23.
 岡田康稔. 1955. 小豆島の哺乳類. 大阪市立自然博物館(編), 小豆島の自然: 14-15. 香川県小豆郡内海町役場, 香川県小豆郡内海町。